

平成21年 5月29日現在

研究種目：基盤研究(B)
 研究期間：2006～2008
 課題番号：18320136
 研究課題名(和文) グローバル化時代における公共空間と場所アイデンティティの再編に関する研究
 研究課題名(英文) Reorganization of public spaces and identity of place in the time of globalization
 研究代表者
 高木 彰彦(TAKAGI AKIHIKO)
 九州大学・大学院人文科学研究院・教授
 研究者番号：90197054

研究成果の概要：公共空間と場所アイデンティティの再編について、地理思想史、理論的研究、経験的研究の観点から検討を行った。研究成果として、『空間・社会・地理思想』10(2006)、『空間・社会・地理思想』11(2007)、『空間・社会・地理思想』12(2008)を毎年刊行したほか、英文報告書として『Reorganization of public spaces and identity of place in the time of globalization: Japanese contribution to the history of geographical thought(10)』(2009)を刊行した。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	5,900,000	1,770,000	7,670,000
2007年度	4,700,000	1,410,000	6,110,000
2008年度	4,400,000	1,320,000	5,720,000
年度			
年度			
総計	15,000,000	4,500,000	19,500,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：人文地理学

キーワード：公共空間、場所アイデンティティ、人文地理学、地理思想史、社会理論

1. 研究開始当初の背景

グローバル化の進展によって、人間と場所および空間との関係は大きな転換を経験しつつある。場所アイデンティティは所与の自明のものではなくなり、それをめぐる社会・文化的実践は政治・経済の変動と接合しつつ、多くの葛藤と抵抗を生み出す場となった。また「公共空間」も私有化によってその本来の機能を変質させ、他者を排除する空間になりつつある。

このように、地理学においても、グローバル化に伴う公共空間と場所アイデンティ

ティの再編について、現象の把握にとどまらず、社会理論の展開を踏まえて検討する必要性は極めて大きい。

本研究組織は、1978年以来の伝統を持つ地理思想史および社会理論に関する科研グループの流れを引き継ぐもので、研究分担者及び連携研究者の多くが、これまでの科研費による研究に継続的に参加し、地理思想史および欧米における社会理論の展開に最も造詣の深い集団である。こうした豊富な研究蓄積を踏まえて、それぞれの研究メンバーが、それぞれのスタンスで公共空間と場所アイ

デンティティの再編について取り組むことにした。

2. 研究の目的

本研究の目的は、上述したような研究の背景を踏まえて、グローバル化時代における公共空間と場所アイデンティティの変容と再編成を、思想的考察、理論的探究、経験的研究を密接に関連させることによって、より根源的に解明することにある。

3. 研究の方法

本研究は、こうした現状を批判的に分析するため、思想史、理論、経験研究を有機的に関連させる研究手法を取り、社会・地理思想史研究、先端理論研究、場所アイデンティティ研究、公共空間研究、の各研究班を組織してそれぞれの成果を統合することで、新しい地理学的社会理論と開かれた社会、空間、場所の在り方の再構築を目指した。

本研究では、上記の目的を達成するために、研究メンバーを以下の4班に分けて研究に取り組んだ。

研究組織	研究メンバー
社会・地理思想史研究班	山野、源、久武、島津
先端理論研究班	高木、堤、山崎、中島、今里
場所アイデンティティ研究班	内田、荒山、大城、福田、神田
公共空間研究班	山本、熊谷、水内、遠城、加藤

4. 研究成果

(1) 全体的な成果

本研究グループは、1978年にスタートした地理思想科研の流れをくむもので、これまでも、日本の地理学界において、地理思想史と欧米の社会理論の展開に関して造詣が深く、すぐれた経験的研究も数多く蓄積してきた。これらの研究成果は、英文報告書である『Japanese contribution to the history of geographical thought』シリーズ9冊の刊行と、『空間・社会・地理思想』の9冊の刊行によって、広く国内外に公表されてきた。

本研究は、これまでの研究成果を踏まえて、新たに『空間・社会・地理思想』No.10-12を、それぞれ、2006年、2007年、2008年に刊行するとともに、『Japanese contribution to the history of geographical thought(10)』として、『Reorganization of public spaces and identity of place in the time of globalization』を2009年に刊行した。

(2) 個別の成果

以下では、上記研究方法で述べた4つの研究班ごとに成果の概要を述べていく。

社会・地理思想史研究

知の空間論の視点から、20世紀初頭における日本の地理思想の特質や場所アイデンティティに関する考察を進めた。その成果として、島津(2007)(雑誌論文)があげられる。

また、源は地理学者と軍部との関わりについて考察を進め、源(2009)(雑誌論文)や源(2007)(図書「空間・社会・地理思想」11所収)を発表した。

先端理論研究

本班においては、文化・社会地理学の新たな方法と視座に関する理論的研究を行うとともに、それらを踏まえつつ、公共空間と「社会的正義」の再構築の問題に関する経験的な研究に取り組んだ。

具体的な成果として、第一に、今里(2009)(図書)やImazato(2007)(雑誌論文)をあげることができる。両論文は、これまで、ともすれば、「人文主義地理学」として一括りに理解されがちであったレイ、トゥアン、レルフという3人の人文主義地理学者を、それらの方法論が一枚岩的なものではなく多様な性格を有するものだと再解釈したものである。

また、中島(2008)(雑誌論文)および中島(2009)(図書)は、沖縄の公共空間をめぐる平和運動と環境保全運動の展開過程を明らかにしたものである。

さらに、山崎は欧米政治地理学における領域性をめぐる議論について検討し、サックの『人間の領域性 - その理論と歴史』の部分訳を『空間・社会・地理思想』No.11誌上に掲載するとともに、沖縄における公共空間の再編と場所アイデンティティに関する研究として、山崎(2007, 2008a,b)(雑誌論文)を発表するとともに、都市における安全問題として、山崎(2009)(雑誌論文)を発表し、公共空間の安全問題に関する先端理論の紹介に努めた。

最後に、高木(2009)(雑誌論文)は、最新の地政学理論を踏まえて、戦中期における日本の地政学の特徴を再検討したものである。

場所アイデンティティ研究

本班は、新たな理論展開の著しい「場所論」を参照しつつ、グローバルとローカルの二者択一に囚われないグローバルとしての場所の記述と理解に努めた。

主な研究成果として、内田(2008)(雑誌論文)や、福田(2008a,b)(雑誌論文)、神田(2009)(雑誌論文)、水内・加藤・大城編(2008)(図書)などがある。

公共空間研究

本班は、変動著しい都市社会・空間をフィールドにして、「公共空間」の現況を批判的に検討した。

主な成果として、Ymamoto(2009)(図書)、水内(2006)(図書)、遠城(2008)(雑誌論文)や遠城(2009)(図書)、加藤(2007)(雑誌論文)、水内・加藤・大城(2008)(図書)などがある。

(3)その他の成果

上記の成果で指摘できなかった成果として、以下の点を指摘することができる。

『空間・社会・地理思想』No.10-12における欧米の先端理論・方法論に関する文献の翻訳：

これについては、上述の『人間の領域性』を含めて、合計11本の論文・著書の翻訳を掲載した。

内外での国際学会における積極的な成果の発表：

これについては、研究期間の間に内外で開催された国際学会に積極的に参加し、報告を行い、研究成果を広く海外にも伝えることができた。発表内容の多くは、現時点では、活字として報告されていないものの、特筆すべき成果の一つとして指摘しておきたい。主な学会名として、2006年度は世界政治学会、第4回東アジアオルタナティブ地理学会議、2007年度は第5回批判地理学者国際会議、2008年度は、日本・アジア学会、第3回中国・日本・韓国地理学会議、第5回東アジアオルタナティブ地理学会議、を指摘しておく。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計18件)

高木彰彦、雑誌『地政学』にみる日本の地政学の特徴、史淵、146、185-203、2009、査読無し

源昌久、日本の兵要地誌に関する一研究 - 中国地域を中心に、小林茂編『近代日本の地図作成とアジア太平洋地域 - 「外邦図」へのアプローチ』、256-298、2009、査読無し

山崎孝史、地域安全と地理学研究、地理、54-1、36-45、2009、査読無し

神田孝治、吉野熊野国立公園の指定と熊の風景の変容、和歌山大学観光学部設置記念論集、99-113、2009、査読無し

神田孝治、近代期の和歌山県における観光地の形成とその背景、地域研究シリーズ、33、1-21、2008、査読無し

福田珠己、「ホーム」の地理学をめぐる最近の展開とその可能性 - 文化地理学の視

点から、人文地理、60-5、403-422、2008、査読有り

福田珠己、過去と未来の間で - 目に見えない領域に挑む文化遺産の現在、環境と公害、38-1、9-15、2008、査読有り

中島弘二、沖縄における自然保護運動と基地反対運動の展開、金沢大学文学部論集、28、77-94、2008、査読無し

内田忠賢、よさこい系イベントがもつ都市祝祭の運命、都市問題、99-1、73-79、2008、査読無し

山崎孝史、軍治優先主義の経験と地域再開発戦略 - 沖縄「基地の町」三態、人文研究、59、71-96、2008、査読無し

山崎孝史、USCAR 文書からみた A サイン制度と売春・性病規制、沖縄県公文書館研究紀要、10、39-52、2008、査読無し

遠城明雄、明治後期の都市社会の一面、史淵、145、243-268、2008、査読無し

Imazato Satoshi, Rethinking the Humanistic Approach in Geography, 人文地理、59、508-532、2007、査読有り

加藤政洋、都市編成と『植民地なき植民地主義』、立命館大学言語文化研究、19、117-129、2007、査読無し

荒山正彦、大阪商船と近代ツーリズム - 二つのツーリズム空間という視点から、人文論究、57、1-24、2007

島津俊之、小川琢治と紀州 - 知の空間論の視点から、地理学評論、80-14、887-906、2007、査読有り

島津俊之、明治・大正期における「熊野百景」と風景の生産、人文地理、59-1、7-26、2007、査読有り

山崎孝史、戦後沖縄の境界・領域と政治行動 - 領土の分離・統合と闘争のイデオロギー、史林、90-1、179-209、2007、査読無し

[学会発表](計35件)

福田珠己、「郷土」の視覚化 - 棚橋源太郎の博物館論を中心に、日本地理学会春季学術大会、2009年3月29日、帝京大学

遠城明雄、第一次世界大戦後の日本の地方都市における地域住民組織、日本地理学会春季学術大会、2009年3月29日、帝京大学

熊谷圭知、グローバル化時代の世界地誌を考える - パプアニューギニアの視点から、日本地理学会春季学術大会、2009年3月29日、帝京大学

Yamazaki Takashi, United States in world affairs after Bush: Geopolitical and geoeconomic perspectives from abroad, Political Geography Plenary Session, The Association of American Geographers 105th Annual Meeting, 2009年3月25日、

ラスベガス・リビエラホテル (米国)
Yamazaki Takashi, The militarization of a local community by the U.S. military presence: The case of pre-reversion Okinawa, Japan, The Association of American Geographers 105th Annual Meeting, 2009年3月23日、ラスベガス・コンベンションセンター (米国)
Yamazaki Takashi, The impact of U.S. military presence on local politics in pre-reversion Okinawa, Japan, 22nd Annual Political Geography Specialty Group Pre-conference, 2009年3月21日、ラスベガス・プラザホテル (米国)
島津俊之、国土調査期間としての内務省地理局 - 官庁の学問的実践をめぐって、第33回地学史研究会、2008年12月20日、早稲田奉仕園
Onjo Akio, Local festival and the construction of local community in contemporary Japan, 5th East Asian Regional Conference in Alternative Geographies, 2008年12月15日、ソウル大学校 (韓国)
Tsutsumi Kenji, Over neoliberal social capitalism: Social capital and revitalization of depopulation in rural Japan, 5th East Asian Regional Conference in Alternative Geographies, 2008年12月15日、ソウル大学校 (韓国)
Takagi Akihiko, Recent re-structuring of municipalities in Japan, 5th East Asian Regional Conference in Alternative Geographies, 2008年12月14日、ソウル大学校 (韓国)
Oshiro Naoki, Whose appropriation?: Changing cultural urban landscapes in Okinawan cities, 5th East Asian Regional Conference in Alternative Geographies, 2008年12月14日、ソウル大学校 (韓国)
Fukuda Tamami, Whose memories are reflected in a landscape?: Under the system for protecting cultural landscapes, 5th East Asian Regional Conference in Alternative Geographies, 2008年12月14日、ソウル大学校 (韓国)
Kanda Koji, Holy place and imaginations: A case study of Ise Shrine in Japan, 5th East Asian Regional Conference in Alternative Geographies, 2008年12月14日、ソウル大学校 (韓国)
Nakashima Koji, Sovereign power, people and nature: Grassroots antiwar movements and alternative productions of nature, 5th East Asian Regional Conference in Alternative Geographies, 2008年12月13日、ソウル大学校 (韓国)

山崎孝史、現代地政学への批判的アプローチ - マルチスケールの視角と地政言語の分析人文地理学会大会、2008年11月9日、筑波大学
高木彰彦、離島における市町村合併後の行政の実情 - 対馬市・壱岐市の事例、経済地理学会中部支部例会、2008年11月1日、中部大学名古屋キャンパス
神田孝治、日本統治期の台湾における国立公園の風景と心象地理、人文地理学会第111回歴史地理研究部会、2008年8月26日、京都大学
島津俊之、内務省地理局の地図作製とコミュニケーション - 空間掌握をめぐる官庁地理学 (Official Geography) の一実践、シンポジウム「歴史の中の地図 III 近代国家形成と地図作成 - 比較史的視点から」、2008年7月12日、東京大学
Takagi Akihiko, Japanese geographers commitment to geopolitics during wartime, The Twelfth Asian Studies Conference Japan, 2008年6月22日、立教大学
中島弘二、戦後日本における国土緑化運動の展開 - 「社会的自然」の観点から、関西社会学会大会シンポジウム、2008年5月25日、松山大学
21 遠城明雄、地域住民組織の変動からみた1920年代の日本の都市社会、東北地理学会・歴史地理学会合同大会、2008年5月17日、宮城大学
22 Shimazu Toshiyuki, Academic official and popular geographies in Meiji Japan: 1868-1900, 5th International Conference of Critical Geography, 2007年12月5日、タタ社会科学部 (インド)
23 遠城明雄、近年の「空間スケール」研究に関する若干の紹介、人文地理学会大会、2007年11月18日、関西学院大学
24 山崎孝史、軍治優先主義の経験と地域再開発における自治体戦略、人文地理学会大会、2007年11月18日、関西学院大学
25 山崎孝史、USCAR 文書からみた米軍統治とコザ、日本地理学会秋季学術大会、2007年10月7日、熊本大学
26 Tsutsumi Kenji, Social ties and social capital, 4th Workshop on Social Capital and Development Trends in Japanese and Swedish Countryside, 2007年8月21日、北海学園大学
27 Yamazaki Takashi, Experiences of militarism and the politics of urban redevelopment, Association of American Geographers 103rd Annual Meeting, 2007年4月19日、サンフランシスコ
28 Yamazaki Takashi, The exercise of territoriality for the governance of

- Okinawa, 20th Annual Political Geography Special Group, 2007年4月16日、カリフォルニア大バークレー校
- 29 山野正彦、タイの仏教宇宙図と巡礼図、人文地理学会大会、2006年11月12日、近畿大学
- 30 内田忠賢、増殖する都市祝祭とローカリズム - 「よさこい/YOSAKOI系祭り」をめくって、人文地理学会大会、2006年11月12日、近畿大学
- 31 山崎孝史、沖縄統治における「領域性」の行使 - 米軍文書にみる「オフ・リミッツ」の実態、人文地理学会大会、2006年11月12日、近畿大学
- 32 水内俊雄、田中靖記、林 修平、福田 淳、山西麻衣、中間居住施設を利用したNPOなどによるホームレスへの生活・就労支援、人文地理学会大会、2006年11月12日、近畿大学
- 33 熊谷圭知、パプアニューギニア - 新しい地(域)誌をめざして、人文地理学界大会、2006年11月11日、近畿大学
- 34 TAKAGI Akihiko & Michoudet, Cécile, Geopolitical Change in East Asia and Kyushu Island in Japan: a Geopolitical Perspective on Borders and Networks, 20th International Political Science Association World Congress, 2006年7月13日、福岡国際会議場
- 35 Yamazaki Takashi, Territoriality in trouble: challenges to Japan from Northeast Asia, 20th International Political Science Association World Congress, 2006年7月13日、福岡国際会議場
- [図書](計8件)
- Onjo Akio and Takagi Akihiko eds., Kyushu University, *Reorganization of public spaces and identity of place in the time of globalization: Japanese contribution to the history of geographical thought*(10), 2009, 78.
- 金沢大学文学部地理学教室編(中島弘二、遠城明雄、今里悟之)、古今書院、自然・社会・ひと - 地理学を学ぶ(中島: 沖縄における草の根平和運動エコツーリズムの展開、遠城: 明治後期の地方都市における地域政治 - 下関市の事例、今里: 人文主義地理学における多様性の再検討 - トゥアン、レルフ、レイの所論から)、2009、320(95-114、132-147、299-318)
- 遠城明雄、吉川弘文館、近代日本の企業家と政治 - 安川敬一郎とその時代(日露戦争前後の地方都市における政治状況 - 門司市の場合)、2009、303(190-221)
- 水内俊雄(編集代表)、九州大学(高木彰

彦) 空間・社会・地理思想 12、2008、171

水内俊雄、加藤政洋、大城直樹、モダン都市の系譜 - 地図から読み解く社会と空間、ナカニシヤ出版、2008、335

水内俊雄(編集代表)、九州大学(高木彰彦) 空間・社会・地理思想 11、2007、174

大阪市立大学都市文化研究センター編(山野正彦) 清文堂、都市文化理論の構築に向けて、2007、155-179

水内俊雄(編集代表)、九州大学(高木彰彦) 空間・社会・地理思想 10、2006、137

水内俊雄、近代日本の国土空間の生産をめぐる計画化思想とその実践、岩波書店、『「帝国」日本の学知』、2006、195-234

6. 研究組織

(1) 研究代表者

高木 彰彦 (TAKAGI AKIHIKO)
九州大学・大学院人文科学研究科・教授
研究者番号：90197054

(2) 研究分担者

遠城 明雄 (ONJO AKIO)
九州大学・大学院人文科学研究科・教授
研究者番号：00243866

荒山 正彦 (ARAYAMA MASAHIKO)
関西学院大学・文学部・教授
研究者番号：70263184

島津 俊之 (SHIMAZU TOSHIYUKI)
和歌山大学・教育学部・准教授
研究者番号：60216075

中島 弘二 (NAKASHIMA KOJI)
金沢大学・人間科学系・准教授
研究者番号：90217703

山野 正彦 (YAMANO MASAHIKO)
大阪市立大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号：20094493
(平成18年度～平成19年度)

源 昌久 (MINAMOTO SHOKYU)
淑徳大学・社会学部・教授
研究者番号：80104826
(平成18年度～平成19年度)

久武哲也 (HISATAKE TETSUYA)
甲南大学・文学部・教授
研究者番号：50136355
(平成18年度～平成19年度、平成19年7月27日逝去)

山本 健児 (YAMAMOTO KENJI)
九州大学・大学院経済学研究院・教授
研究者番号：50136355
(平成18年度～平成19年度)

熊谷 圭知 (KUMAGAI KEICHI)
お茶の水女子大学・大学院人間文化研究科・教授
研究者番号：80153344

(平成18年度～平成19年度)
水内 俊雄(MIZUUCHI TOSHIO)
大阪市立大学・都市研究プラザ・教授
研究者番号: 50136355
(平成18年度～平成19年度)
内田 忠賢(UCHIDA TADAYOSHI)
奈良女子大学・大学院人間文化研究科・教授
研究者番号: 00213439
(平成18年度～平成19年度)
堤 研二(TSUTSUMI KENJI)
大阪大学・大学院文学研究科・准教授
研究者番号: 20188593
(平成18年度～平成19年度)
山崎 孝史(YAMAZAKI TAKASHI)
大阪市立大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号: 10230402
(平成18年度～平成19年度)
大城 直樹(OSHIRO NAOKI)
神戸大学・大学院文学研究科・准教授
研究者番号: 00274407
(平成18年度～平成19年度)
福田 珠己(FUKUDA TAMAMI)
大阪府立大学・人間社会学部・准教授
研究者番号: 80285311
(平成18年度～平成19年度)
今里 悟之(IMAZATO SATOSHI)
大阪教育大学・教育学部・准教授
研究者番号: 90324730
(平成18年度～平成19年度)
加藤 政洋(KATO MASAHIRO)
立命館大学・文学部・准教授
研究者番号: 30330484
(平成18年度～平成19年度)
神田 孝治(KANDA KOJI)
和歌山大学・観光学部・准教授
研究者番号: 90382019
(平成18年度～平成19年度)

(3) 連携研究者

山野 正彦(YAMANO MASAHIKO)
大阪市立大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号: 20094493
(平成20年度)
源 昌久(MINAMOTO SHOKYU)
淑徳大学・社会学部・教授
研究者番号: 80104826
(平成20年度)
山本 健兒(YAMAMOTO KENJI)
九州大学・大学院経済学研究院・教授
研究者番号: 50136355
(平成20年度)
熊谷 圭知(KUMAGAI KEICHI)
お茶の水女子大学・大学院人間文化研究科・教授
研究者番号: 80153344
(平成20年度)

水内 俊雄(MIZUUCHI TOSHIO)
大阪市立大学・都市研究プラザ・教授
研究者番号: 50136355
(平成20年度)
内田 忠賢(UCHIDA TADAYOSHI)
奈良女子大学・大学院人間文化研究科・教授
研究者番号: 00213439
(平成20年度)
堤 研二(TSUTSUMI KENJI)
大阪大学・大学院文学研究科・准教授
研究者番号: 20188593
(平成20年度)
山崎 孝史(YAMAZAKI TAKASHI)
大阪市立大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号: 10230402
(平成20年度)
大城 直樹(OSHIRO NAOKI)
神戸大学・大学院文学研究科・准教授
研究者番号: 00274407
(平成20年度)
福田 珠己(FUKUDA TAMAMI)
大阪府立大学・人間社会学部・准教授
研究者番号: 80285311
(平成20年度)
今里 悟之(IMAZATO SATOSHI)
大阪教育大学・教育学部・准教授
研究者番号: 90324730
(平成20年度)
加藤 政洋(KATO MASAHIRO)
立命館大学・文学部・准教授
研究者番号: 30330484
(平成20年度)
神田 孝治(KANDA KOJI)
和歌山大学・観光学部・准教授
研究者番号: 90382019
(平成20年度)

(4) 研究協力者

野澤 秀樹(NOZAWA HIDEKI)
九州大学名誉教授
森 正人(MORI MASATO)
三重大学人文学部・准教授
柴田 陽一(SHIBATA YOICHI)
京都大学大学院生